北欧におけるポストアプローチのネットワーク：NERA Conference 2026 参加報告

岡南　愛梨

2026 年 3 月に、デンマーク・オーフスで開催された NERA（The Nordic Educational Research Association: 北欧教育研究学会）Conference 2026 にて、ポスター発表を行いました。発表題目は、“When Boxes Build a Home: Exploring Belonging through Material Entanglements in ECEC for Toddlers in Japan（箱が家をつくるとき：日本の乳児保育における物質的なもつれ合いから Belonging を考える）”です。認定こども園 1 歳児クラスで収集した映像データを分析し、家庭的雰囲気の生成について検討しました。ニューマテリアリズム（Barad, 2007; Lenz Taguchi, 2010; 岡南, 2025）を理論的枠組みとして、環境を固定的な背景として人間の関係のみに着目することを超え、子どもの園生活にある物質的・情動的な力に注目して分析することで、乳児保育における Belonging（所属感やその心地よさ）を再考しました。当日は、ノルウェーやスウェーデンの研究者などがポスターの内容にとても興味を持って聴いてくださり、子どもの視点を尊重した研究であるとの評価をいただきました。

NERA にはいくつものネットワーク（分科会）があります。今回私が発表をしたのはネットワーク 3 の「乳幼児期研究」でしたが、理論的枠組みとしてはネットワーク 22 の「教育へのポストアプローチ」に属します。大会期間中は、このネットワーク 22 の発表やワークショップに多く参加しました。ネットワーク 22 は、2011 年にポスト構造主義の研究のためのプラットフォームとして設立され、その後、ポストヒューマン理論が盛んに議論されるようになったことを背景に、2016 年に現在の名称へと変更されたそうです。実際今回の大会でも、ポストヒューマンやニューマテリアリズムを理論的背景とする研究がいくつもあり、何度も同じ会場で顔を合わせるうちに自然と研究関心の近い人たちがわかって交流が生まれました。保育に限らず多様な分野の研究者と意見交換ができたことは大きな刺激となり、同じ理論的関心を共有する研究コミュニティの存在の偉大さを感じました。